

文人の理想郷を描く

わたなべかざん たにぶんちよう つばきちんざん えがき さんすいが しんけいず
渡辺華山、谷文晁、椿椿山が描いた山水画、真景図

田原市博物館

愛知県田原市田原町巴江11-1

0531-22-1720

<http://www.taharamuseum.gr.jp>

特別展示室

期間：令和元年7月20日(土)～9月8日(日)

	作者	作品名	制作年	材質	員数	規格	備考
1	重文 わたなべかざん 渡辺華山	せんざんぼんすいず 千山万水図	天保12年(1841)	絹本着色	1	掛幅	
2	わたなべしょうか 渡辺小華	せんざんぼんすいず 千山万水図	明治時代	紙本淡彩	1	掛幅	
3	たに ぶんちよう 谷 文晁	せんざんぼんすいず 千山万水図	文化4年(1807)	紙本着色	1	掛幅	柴野栗山賛
4	わたなべかざん 渡辺華山	せつざんこういんず 雪山高隠図	天保8年(1837)	絹本着色	1	掛幅	
5	わたなべかざん 渡辺華山	しゅうけいさんすいず 秋景山水図 <small>(なからんえいさんすいず 飯盛山山水図)</small>	文政年間	紙本淡彩	1	掛幅	
6	たに ぶんちよう 谷 文晁	しゅうざんこていず 秋山孤亭図	天明年間	紙本淡彩	1	掛幅	
7	たに ぶんちよう 谷 文晁	かけいさんすいず 夏景山水図	寛政9年(1797)	紙本墨画	1	掛幅	
8	たに ぶんちよう 谷 文晁	なつやまきばず 夏山騎馬図	文化5年(1808)	絹本着色	1	掛幅	
9	たに ぶんちよう 谷 文晁	りはくかんぼくず 李白観瀑図	文化年間	紙本墨画	1	掛幅	
10	たに ぶんちよう 谷 文晁	こうしゅうぼうがくず 甲州望岳図	寛政12年(1800)	紙本墨画淡彩	1	掛幅	
11	たに ぶんちよう 谷 文晁	さんすいず 山水図 <small>(しやうけいすいそんず 松溪水村図)</small>	寛政年間	紙本墨画淡彩	1	掛幅	
12	つばき ちんざん 椿 椿山	さんすいず 山水図 <small>(なからんえいさんすいず 飯盛山山水図)</small>	天保14年(1843)	紙本墨画	1	掛幅	
13	つばき ちんざん 椿 椿山	こうざんぎらくず 江山漁楽図	天保10年(1839)	紙本淡彩	1	掛幅	為 安積良斎
14	つばき ちんざん 椿 椿山	にっこうどうちゅうしんけい 日光道中真景	文政12年(1829)	紙本墨画	1	横巻	
15	つばき ちんざん 椿 椿山	にっこうどうちゅうしんけい 日光道中真景	江戸時代	紙本墨画	1	冊子	
16	つばき ちんざん 椿 椿山	にっこうどうちゅうしんけい 日光道中記	江戸時代	紙本墨画	1	冊子	
17	つばき ちんざん 椿 椿山	えのしましんけいろくず 江戸島真景六図	江戸時代	紙本墨画	1	横巻捲り	
18	つばき ちんざん 椿 椿山	さんかいきしやうずこう 山海奇賞図稿	文政10年(1827)	紙本淡彩	1	横巻	巴江神社蔵
19	かぶらぎかく 鍋木華国	もほん さんかいきしやうず 摸本 山海奇賞図	明治29年(1896)	紙本淡彩	3	横巻	
20	わたなべかざん 渡辺華山	ふくせい ししゅうしんけい 複製 四州真景図	文政8年(1825)	紙本淡彩	1	横巻	全4巻の内
21	かぶらぎかく 鍋木華国	もほん ししゅうしんけい 摸本 四州真景図	明治29年(1896)	紙本淡彩	1	横巻	全3巻の内
22	うえだもうしんへん 植田孟縉編	にっこうさんし 日光山志	天保8年(1837)	版本	2	冊子	全5冊の内
23	たに ぶんちようちよ 谷 文晁著	にほんめいざんずえ 日本名山図絵	文化9年(1812)	版本	2	冊子	全3冊の内

● 渡辺華山 寛政5年(1793)～天保12年(1841)

江戸麹町田原藩上屋敷に生まれました。絵は金子金陵から谷文晁につき、伝統的な東洋画の画風に西洋的な陰影・遠近画法を加えた作品に評価が高い。40歳で藩の江戸家老となり、藩財政の立て直しを進めながら、江戸の蘭学研究の中心にいました。「蛮社の獄」で高野長英らと共に投獄され、在所蟄居となり天保12年に田原池ノ原で自刃しました。

● 谷文晁 宝暦13年(1763)～天保11年(1840)

漢詩人谷麓谷の子として江戸に生まれ、渡辺玄対に画を学ぶ。26歳で田安德川家に出仕、のち老中松平定信付となり、その巡視や旅行に随行し、『集古十種』などの編さんに携わりました。中国・日本・西洋の画法を広く学び、当時を代表する多数の儒者・詩人・書画家たちと交流し、また渡辺華山、高久靄厓、立原杏所など数多くの門人を育成しました。

● 椿椿山 享和元年(1801)～嘉永7年(1854)

江戸に生まれ、幕府槍組同心。華山が最も信頼した弟子です。長沼流兵学を修め、また俳諧、笙、煎茶への造詣も深い。水彩画を思わす色調の花鳥画及び華山譲りの肖像画を得意としました。

● 渡辺小華 天保6年(1835)～明治20年(1887)

渡辺華山の二男。十三歳で椿椿山に入門し、花鳥画の技法を習得しました。長兄立が亡くなったため、渡辺家の家督を相続し、田原藩の家老職、廃藩後は参事の要職を勤めました。明治15年上京し、花鳥画には、独自の世界を築き、宮内庁(明治宮殿)に杉戸絵を残すなど、中央画壇での地位を確立し、東三河や遠州の作家に大きな影響を与え活躍を期待しましたが、53歳で病没しました。

● 鍋木華国 明治元年(1868)～昭和17年(1942)